

招 集 期 日	平成 2 9 年 4 月 2 1 日 (金)		会議の場所	教育委員室
会議の時刻 及び宣告者	開会の時刻	午後 1 5 時 0 0 分	開 会 者	教 育 長
	閉会の時刻	午後 1 6 時 4 0 分	閉 会 者	教 育 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
秋 本 文 子 教 育 長	出 席	柿 沼 拓 弥 委 員	出 席	
古市明教育長職務代理者	出 席	高 瀬 賢 一 委 員	出 席	
春 山 教 子 委 員	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説明のための出席者	佐藤学校教育部長	赤坂生涯学習部長	橋本教育総務課長	細村学校教育課長
	小島学校給食センター所長	岡田生涯学習課長	山木スポーツ振興課長	奥野図書館長兼郷土資料館長
書 記 名	教育総務課総務係 横山			
会議事件名	て ん 末			
開 会	教育長	4 月 定 例 教 育 委 員 会 を 開 会		
日 程 第 1 前 回 会 議 録 の 承 認	教育長	<p>教育委員会の会議は原則公開であるが、人事に関する事件その他の事件について出席委員の3分の2以上の多数により議決した場合は公開しないことができる。本日の日程の中で非公開とすべき事案はないため、全て公開としてよろしいか。</p>		
	教育長	異議なしの声あり		
	教育長	<p>3 月 定 例 教 育 委 員 会 の 会 議 録 の 承 認 に つ い て 諮 っ た。</p> <p>異議なしの声あり</p> <p>前 回 会 議 録 は、承 認 さ れ た 旨 宣 し た。</p>		
	教育長	<p>報 告 事 項 1 に つ い て、学 校 教 育 部 長 及 び 生 涯 学 習 部 長 か ら 説 明 を 求 め た。</p>		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第2 報告事項1 平成29年3月定例市議会提出(教育委員会関係)議案等について</p>	<p>学校教育部長</p>	<p>丑久保恒行議員から、平成29年度羽生市一般会計予算のうち、「英語力の向上について」の議案質疑があった。1点目の「ALT配置 これまでの配置先の効果について」は、現在、ALTは3中学校と岩瀬小学校及び村君小学校に1名ずつ常駐し、それ以外の各小学校に2校若しくは3校あたり1名を配置していること、授業におけるネイティブスピーカーによる英語に触れる機会の充実、国際理解教育の充実等の効果があり、さらに英語村推進事業に取り組む村君小学校、岩瀬グローバルタウン構想の中でグローバルスクールに取り組む岩瀬小学校において様々な効果があったことを説明した。2点目の「ALTの配置計画について」及び3点目の「全小学校への配置を求めて」については、平成32年度より全面実施となる新学習指導要領の改訂により、小学校5、6年における外国語の教科化及び3、4年生における外国語活動の実施が予定されているため、ALTの増員を検討していると答弁した。</p> <p>中島直樹議員から、平成29年度羽生市一般会計予算について、複数の議案質疑があった。まず、「小・中学校ICT活用の推進について」は、市内全小・中学校に順次、タブレットパソコンを導入し、授業に活用できることにすることで、より分かりやすい授業とし、学力の向上を目指す事業であると答弁し、加えて、平成29年度の導入予定校と導入台数、その設置時期について説明した。</p> <p>続いて、「全国プレゼンテーションコンクールの開催について」は、プレゼンテーションコンクールの全国大会を羽生市で開催することにより、切磋琢磨しながら全国水準のコミュニケーション能力を養うことを目指す事業であると答弁し、「催しの具体的な内容」として、期日、場所、方法について説明した。「予算計上の理由」及び「教師の負担」については、これまでも計上してきた羽生市プレゼンテーション能力育成活動事業交付金が予算の主な内訳となっており、従来どおりの取組で発表の場が全国大会になるだけであることから、教職員にとって多大な負担にはならないことを説明した。</p> <p>野中一城議員から、平成29年度羽生市一般会計予算のうち、「学力アップ羽生塾について」の議案質疑があった。まず、「対象者の選定について」は、基本的に応募者全員の入塾を考えていると説明した。次に、「受講者の状況について」は、平成28年度の受講</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>生は、小学校4年生が21名、5年生が4名、6年生が9名の合計34名であることを説明した。最後に、「効果・検証と今後の進め方について」は、入塾している小学校5年生の、埼玉県学力・学習状況調査と羽生市学力検証テストの平均正答率を比較すると、平均2.9%向上しており、一定の成果を得られたこと、アンケートで多くの児童が、講師の丁寧な指導により、分かり易かったと回答しており、今後は対象を拡大し、小学校3年生からとすると答弁した。</p> <p>齊藤隆議員から、「不登校児童生徒の支援について」の一般質問があった。1点目の「羽生市の不登校児童生徒の実態について」は、小学校では平成25年度3人、26年度8人、27年度8人、28年度は2学期現在で9人であり、中学校では平成25年度44人、26年度38人、27年度29人、28年度は2学期末現在で26名と減少傾向であり、小・中学校共に、その割合は全国と比較して少ないが、不登校児童生徒が1名でもいる限り、その解消に向けて今後も継続した取組みを続けていくと答弁した。2点目の「児童生徒理解・教育支援シート」については、文部科学省が示すこのシートは、これまで以上に不登校児童生徒一人一人に支援を行うための優れた様式であると受け止めており、今後は各校で使用しているものと比較検討しながら、児童生徒にとってより良い形で導入できるよう取組んでいくと答弁した。3点目の「教育支援センターの設置状況について」は、羽生市民プラザ内に羽生市教育研修センターを設置し、羽生市適応指導教室や教育相談室を開設し、学校生活にうまく適応できない児童生徒の問題をはじめ、教育に係る様々な悩みに対して、教育相談の充実を図ることを目的として業務を行っていることを説明した。4点目の「不登校児童生徒支援等に係る学校と教育委員会との連携の在り方及び役割について」は、教育委員会と学校がそれぞれの役割を明確にし、連携を図り対応することは、不登校を解消するために重要であると捉え、不登校児童生徒に対するより細やかで適切な支援を図るため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置、派遣しており、羽生市独自の取組として、臨床心理士による巡回相談や、羽生市スクールソーシャルワーカー教育相談員による学校訪問や電話相談も行っていることを説明した。5点目の「不登校児童生徒への支援目標について」は、その児童生徒にとってより良</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>い方策が何であるかという視点に立ち、能力・適正・興味・関心等に応じた柔軟な教育を施すために、学校、関係教育機関と教育委員会それぞれができる連携を図り、支援目標を立てていくことが肝要と考えており、「一人一人の多様な課題に対応した切れ目のない組織的な支援の推進」がなされるよう、積極的に取組んでいくと答弁した。</p> <p>中島直樹議員から、「学校給食費の現状について」の一般質問があった。最初に、「平成 20 年度まで『未納がない』としてきたものが一転し、未納額を計上するようになった経緯」については、収入未済額を学校が一時的に負担し、各家庭から徴収を続けていたが、学校の負担を軽減すべく改めるよう、市教育委員会が指導したことや、景気低迷が未納発生の要因であることを説明した。続いて、「不能欠損がない理由」については、各学校及び市教育委員会による未納金徴収の際に、自主納付を促すなどの努力により、未納額が納付されてきたことであると説明した。「未納額の推移が、平成 25 年度が突出した理由と、平成 26 年度が減った理由」については、1つの学校で、1,641,444 円という想定以上の未納が発生し、平成 25 年度にそれが未納額という形で表面化したものであり、市教育委員会は事態を重く受け止め、学校と密に連携協力し、家庭訪問等をとおして積極的な徴収を行い、翌年度には 155,800 円まで減少させることができたと説明した。「それぞれの学校の未納額の現状」については、未納額のある学校は計 4 校であり、小学校のうち 1 校は 591,099 円、もう 1 校は 12,300 円、中学校のうち 1 校は 348,728 円、もう 1 校は 93,100 円であると説明した。「未納の場合の対応者として、羽生市においては、誰がどのような対応を取っているのか」については、未納発生時には、学校から再引落の通知や納入依頼を送付し、納付が確認できない場合は、電話による催促、再度の納入依頼の文書等の発送を実施し、それでも未納が続いた場合は、担任、学年主任、管理職の家庭訪問を段階的に行っていること、さらに次の段階として市教育委員会の職員も家庭訪問に同行し、納付をお願いしていると説明した。</p> <p>「羽生市が行っている具体的な学校給食の未納対策」については、学校からの納付依頼から、市教育委員会職員も同行した家庭訪問までの一連の催促や、就学援助費からの天引きを、今後も継続していくと説明した。「未納対策として児童手当から天引きすること</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>に対する見解」については、羽生市では、児童手当の性格上、これまで児童手当からの天引きについては、積極的に進めていなかったが、法令の性格及び未納の状況などを見極めながら検討していくと説明した。「学校により集金方法や振替金融機関が異なっている現状に対する見解」については、金融機関の振替手数料に格差が生じている現状があるが、今後は地域や学校の状況を勘案しながら、格差がでないよう各学校に働き掛けていくと説明した。最後に、「公会計化に関する見解」については、羽生市では、各学校を通じて学校給食費の納付がされているので、公会計的な仕組みとなっていることを説明し、このような仕組みをとる理由として、未納に対する抑止効果が期待できること、各学校で摂食数の管理が行われることによる保護者への適正な請求が実行できることを挙げ、現方式を活用しながら、相違点である納付方法及び請求方法等の改革について、調査研究を行っていくと答弁した。</p> <p>柳沢暁議員から、「市内公立小中学校教職員の長時間労働是正及び健康管理」について、一般質問があった。1点目の「勤務時間を除く学校に在籍する時間が1ヶ月80時間を超えた教職員の人数と平均時間」については、昨年11月からの3ヶ月間における集計結果から、小学校では、11月が17名、12月が15名、1月が4名で、その平均は11月が47時間、12月が40時間、1月が40時間、中学校では、11月が8名、12月が4名、1月が4名で、その平均は11月が35時間、12月が32時間、1月が31時間であったことを説明した。2点目の「始業、終業時刻の確認、記録の方法」については、羽生市では平成28年度の途中から、在校時間記録簿への記入を行うよう各学校を指導しており、その記録をもとに、管理職が教職員の在校時間を把握し、その状況を月ごとに市教育委員会に報告していると説明した。3点目の「長時間労働是正にむけての今後の取組と今後の方針」については、他市に先駆け、学校事務の共同実施を行うとともに、ファイルサーバーの整備、通知表・指導要録の電子化を進めてきたこと、県で推奨している毎月1回のふれあいデーの推進や、ノー残業デー、ノー部活デーの設定、出張や研修の精選等を励行してきたこと、平成29年度から夏季休業中の8月13日、14日、15日、16日の4日間を学校閉庁日としたこと、スクラップ&ビルドの発想を大切に、校長を通してワークライフバランス等、教職員の意識改革の推進を図るよ</p>

会議事件名	て ん 末	
	生涯学習部長	<p>う指導していると説明した。4点目の「メンタルヘルス対策の推進」については、埼玉県教育委員会が主催する「メンタルヘルス研修会」への参加を全小・中学校悉皆で要請し、広くメンタルヘルス対策の推進に努めてきたこと、また、今年度はじめて、教職員のストレスチェックを実施したことを説明した。</p> <p>同じく柳沢暁議員から「学校給食費無料化」について一般質問があった。1点目の「羽生市で第3子以降の小中学校の給食費を無料化した場合の経費について」は、小・中学校で3人以上の子どもが在籍している家庭の、第3子以降の人数を算出したところ、小学生が125人、中学生が2人で計127人となり、合計費用は575万円程度であると説明した。2点目の「第3子以降の小中学校の給食費を無料化の見解」については、羽生市では、生活保護費、就学援助費、児童手当、子ども医療費の無償など、様々な支援があり、平成26年度に消費税が5%から8%となった際、給食費の増税分は、市において負担し、保護者の負担分を軽減している状況であるため、給食費の無料化は、考えていないと答弁した。</p> <p>丑久保恒行議員から、「防犯カメラの設置について」の一般質問があった。「小中学校設置後の効果」については、全校に設置後の効果について尋ねたところ、「校内に誰かが入ってくる様子が確認でき、普段からモニターを気にするようになった。」「職員の防犯に関する意識が高まった。」等の意見があったこと、また「防犯カメラ監視中」の看板も、犯罪抑止の効果を感じているとの意見も多く聞くことができたと説明した。さらに、来校者がすぐわかり、迅速に対応できる、児童生徒の登下校する様子がよくわかる等、設置目的以外でも役に立っているとの報告を受けていると答弁した。</p> <p>中島直樹議員から、平成29年度羽生市一般会計予算のうち、「2020年東京オリンピック・パラリンピック関連事業の推進について」の議案質疑があった。具体的にどのような活動を行うのかという質問であるが、羽生市では、姉妹都市として国際交流のあるフィリピンやベルギーを中心として、事前キャンプ地やスポーツを通じた文化交流などの誘致に向け、両大使館を通じてメッセ</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>ージを送り、羽生市をPRするなどの誘致活動を進めており、平成29年度においてもこれらを継続する他、国や県などが開催する担当者会議や説明会、シンポジウム等に積極的に参加し、オリンピック・パラリンピックに関する情報収集と連絡調整に努める旨を答弁した。</p> <p>同じく、「トップアスリート育成事業の展開について」の議案質疑があった。まず、「これまでの野球教室そのものを抜本的に見直すことは考えていないのか」については、少年野球教室は平成22年度から元読売ジャイアンツの黒江透修氏他元プロ野球選手を講師に迎え、継続して指導いただいていることにより、子ども達の成長ぶりが分かり、きめ細やかな指導につながっているものと確信している。その成果として昨年の中学野球大会では東中学校が県大会で優勝するなどの成績を収めているため、今後も少年野球教室は継続して実施し、指導者の選定や指導内容については、スポーツ少年団等と相談し、調整していくと答弁した。次に、「剣道教室はどういった経緯で開催されるのか」についてだが、本事業も7年が経過したことから、より多くの種目を取り入れる必要があると考え、未実施である剣道を取り入れることとした。現段階では日程、講師については未定であるが、今後、羽生市剣道連盟に協力いただき、有段者等の優秀な指導者を招いての教室として、小中学生等の技術向上に繋がるよう努めていくと答弁した。</p> <p>斉藤隆議員から、「伝堀越館跡の整備について」の一般質問があった。1点目の「堀越登志氏が何故堀越館跡を寄贈したか」については、伝堀越館跡の所有者であった堀越義彦氏の「後世の人たちに文化遺産を残してもらいたい」という遺志を受け継いだ、妻の堀越登志氏から、史跡と屋敷林の保全を目的として羽生市に寄付の申し入れがあったことを説明した。2点目の「堀越館跡整備について」は、市職員による堀越館跡整備検討委員会を組織し、今後の整備について検討したものであり、基本方針としては、寄付をしていただいた堀越氏の遺志を尊重し、史跡と屋敷林の保全を目的に、現状を維持しながら市民の憩いの場として活用できるように整備していくこととした旨を答弁した。3点目の「伝堀越館跡の今後の整備」については、昨年12月に登志氏が亡くなり、遺族により生活用品等の整理をしていただいていることから、時期をみながら整備計画をもとにできることから整備を進めたいと考</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項2 平成29年度当初教職員人事異動について</p>	<p>教育長</p> <p>学校教育課長</p>	<p>えている旨を説明した他、敷地内では珍しい植物などが観察されることから、調査資料をもとに四季を通して野草等が観察できるよう、パンフレットを作成するなど、史跡を大切に保存し、かつ次世代の子どもたちが自然に触れられるよう活用していきたいと答弁した。</p> <p>本田裕議員から、「産業文化ホール南側駐車場の水たまり解消について」の一般質問があった。1点目の「調整池を駐車場として使用している理由」については、産業文化ホール周辺には、図書館・郷土資料館、ワークヒルズ羽生と複数の公共施設があり、それぞれの敷地内に専用の駐車場があるものの、各施設とも駐車台数に限りがあるため、各施設利用者の利便性を考え、図書館西側の雨水調整池が雨水により冠水していない時に共同駐車場として活用している旨を説明した。2点目の「駐車場の整地をして南北に勾配を付けたらどうか」については、駐車場の雨水対策について研究し、業者等にも相談したが、整備にはかなりの費用がかかることが見込まれる旨を答弁した。3点目の「南側の底面を掘り下げたらどうか」については、図書館の敷地から流入する雨水が溜まるのを軽減するため、図書館の塀に沿って溝を掘る等、様々な角度から検討していく旨を答弁した。4点目の「冠水時に道路側溝へ排水できるポンプを用意したらどうか」については、駐車場の状況を少しでも改善するために、平成28年9月中旬に産業文化ホールの指定管理者において、1分間に1100排水可能な小型ポンプを購入したため、降雨等の冠水時には、臨時的にポンプの活用を図る他、2月26日に指定管理者により、碎石を敷いて転圧作業を行い、駐車場の凹凸の改善に努めた旨を説明した。今後は、まちづくり部と協働で、周辺施設利用者への配慮を心がけ、できることから取組み、段階的に雨水対策に努めたいと答弁した。</p> <p>報告事項2、3、4について、学校教育課長から説明を求めた。</p> <p>小学校では、新採用者、転任者、転補者合わせて81名の異動があり、その内、臨任が33名であった。中学校では、新採用者、転任者、転補者合わせて42名の異動があり、臨任が11名であった。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項3 小・中学校における3 学期の表彰等の結果 について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>校長の異動があったのは小学校4校、中学校2校、教頭の異動は小学校4校、中学校1校であった。</p> <p>羽生北小学校の5年生が、埼玉県書き初め展覧会で埼玉県知事賞を受賞した。新郷第一小学校の5年生が、埼玉県書き初め展覧会で特選賞、3年生と4年生が、埼玉県小中学校児童生徒美術展北埼玉地区展覧会で特選を受賞した。新郷第二小学校の4年生が、児童生徒美術展北埼玉地区展覧会で特選、1年生が、世界児童画展で特選、1年生と4年生が、埼玉県読書感想文コンクールで特選を受賞した。川俣小学校の3年生が、埼玉県小中学校児童生徒美術展中央展覧会で連盟長賞を受賞した。井泉小学校の3年生が、埼玉県小中学校児童生徒美術展中央展覧会で連盟長賞を受賞した。手子林小学校の6年生が、埼玉県書きぞめ展覧会で推薦賞を受賞した。村君小学校の6年生が、埼玉県書き初め展中央展覧会で特選賞を受賞した。羽生南小学校の3年生が、埼玉県書きぞめ展覧会で特選を受賞した。西中学校の3年生が、埼玉県書きぞめ展覧会で推薦賞、2年生と3年生が、埼玉県児童生徒美術展北埼玉地区展覧会で特選を受賞した。南中学校の1年生と2年生が、埼玉県児童生徒美術展北埼玉地区展覧会で特選、1年生が北埼玉支部児童生徒理科研究発表会で最優秀賞を受賞した。東中学校の1年生が、J A 共済小・中学生書道コンクールで特賞を受賞した。</p>
<p>報告事項4 平成29年3月市内中学校 卒業者の進路状況について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>平成28年度も前年度と同様に公立高校に進学する生徒が多く、市全体で75.6%であった。進路が未定の生徒2名の内1名は、その後、公立高校に進学することが決まった。</p>
<p>報告事項5 平成28年度学校給食 実施状況について</p>	<p>教育長</p>	<p>報告事項5、6、7について、学校教育課参事兼学校給食センター所長から説明を求めた。</p>
	<p>給食センター所長</p>	<p>給食人員は小学校、中学校、給食センター職員の合計4,541人であった。給食納付金調定額219,335,202円と賄材料費226,456,805円との差額7,121,603円については、平成26年度よ</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項6 平成29年度学校給食センター学校給食用食材の放射性物質測定について</p>	給食センター所長	<p>り消費税増額分 3%を市が補てんしている分であり、一般会計からの支出となる。なお、納付金の収納率は、99.6%である。実施延べ人数は、851,002 人であった。</p> <p>前年と同様、埼玉県が設置した装置を利用し、学校給食用食材の放射性物質の測定を実施する。偶数月の第 4 金曜日、奇数月の第 2 水曜日を測定日とし、測定物質はヨウ素 131 外 4 項目である。</p>
<p>報告事項7 平成29年度学校給食センター給食試食会の実施について</p>	給食センター所長	<p>5 月 25 日から 12 月 14 日までの期間で計 7 回、学校給食センターにて実施する。市内在住者を対象とし、1 食あたり 275 円を徴収する。募集は、広報「はにゅう」及び市ホームページにて行う。</p>
<p>報告事項8 羽生市生涯学習出前講座事業平成28年度実績報告及び平成29年度実施内容について</p>	生涯学習課長	<p>報告事項 8 ついて、生涯学習課長から説明を求めた。</p> <p>平成 28 年度の実績は、23 団体、24 回の実施で受講者の合計は 1,118 名であった。平成 29 年度の実施内容は、市民生活課の「悪質商法・詐欺にだまされないために」、「消費者センスを身につけよう!」、健康づくり推進課の「健康長寿サポーター養成講座」の新規 3 講座を含む 36 講座を企画する。出前講座によって市民の学習機会をさらに充実するため、また、市民に市の事業について知っていただくよう努めたい。</p>
<p>報告事項9 第30回羽生市陸上競技記録会の開催について</p>	スポーツ振興課長	<p>報告事項 9、10、11 ついて、スポーツ振興課長から説明を求めた。</p> <p>5 月 21 日に羽生中央公園陸上競技場において開催する。一般の参加者が減少していることや、役員の確保が難しくなっている状況を考慮の上、開催内容について陸上競技協会と相談をした結果、</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項10 平成29年度トップアスリート育成事業羽生市少年野球教室の開催について</p>	スポーツ振興課長	<p>今回の参加資格は、市内在学の小学5年生以上及び中学生とした。競技種目は、100m走、ハードルやリレーなどのトラック競技で男子7種目、女子6種目、小学生は男女2種目である。</p> <p>今年度も2回の開催を計画している。1回目を6月3日に羽生中央公園野球場及び体育館で開催する。指導者については、これまで同様、プロ野球OBである黒江透修氏外4名を招き、市内小学校4年生から6年生及び指導者を対象とする。</p>
<p>報告事項11 日本フロアカーリング協会公認全国フロアカーリング大会in羽生の開催について</p>	スポーツ振興課長	<p>6月17日に羽生市体育館にて開催する。全国大会となって8回目である。参加対象者はフロアカーリング愛好者等とし、前年の参加チーム、各地区体育振興会等が開催を案内している。5月13日から参加申込の受付を開始し、先着順で108チームになり次第、締め切る。広報4月号に掲載済みである。</p>
<p>報告事項12 平成28年度羽生市立図書館、郷土資料館事業概要について</p>	教育長	<p>報告事項12について、図書館長兼郷土資料館長から説明を求めた。</p>
<p>報告事項12 平成28年度羽生市立図書館、郷土資料館事業概要について</p>	図書館長兼郷土資料館長	<p>まず、図書館事業概要について説明する。羽生市立図書館協議会を例年通り2回開催した。図書館サービス活動状況は、294日開館し、来館者が71,877人、貸出利用者が62,653人、貸出冊数は253,948冊であった。図書資料・視聴覚資料購入状況については、図書資料は、一般図書3,816冊、児童図書1,367冊等、合計6,812冊を購入し、除籍処分となった6,533冊と相殺すると、年度末の蔵書数は179,093冊となった。視聴覚資料については、DVDを32枚購入し、全視聴覚資料数は2,821枚となった。主要事業については、「図書資料の充実」として、多種多様なニーズに応えるために、図書資料と視聴覚資料の収集、活用に努めた他、地域の郷土資料、行政資料を積極的に収集し、郷土資料コーナーの充実に努めた。また、「利用者サービスの充実」として、玄関にある60インチのデジタルサイネージに、新たに「ムジナモの絵本」と</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>いう幼児向けのコンテンツを導入した。図書館事業実施状況については、幅広い年齢層を対象に多種多様な事業を行い、延べ93日間開催し、参加者数は、2,502人であった。</p> <p>続いて、郷土資料館事業概要について説明する。羽生市立郷土資料館運営委員会は、例年通り2回開催した。収蔵資料の状況については、年度中に購入分16点を含む27点を受け入れ、総収蔵資料数は18,517点となっている。購入資料は、主に田山花袋や太田玉茗関連の資料である。展示の開催については、通常展、企画展合わせて5回開催し、合計5日間で8,458人の来場があった。講座等の開催については、開館30周年記念「図書館・郷土資料館まつり」を開催し、参加者848人を集めた。その他、ふるさと講座として「古文書から読む地方史」、「ふるさと歴史散歩 村君地区を歩く」を実施した。その他、公民館や市内の学校に出向き、計5回の出張講座張講座を行った。社寺調査実施状況については、永明寺、長寿寺、源長寺の3つの社寺について合計15日間実施した。</p> <p>教育長 報告事項に関して質問・意見を求めた。</p> <p>春山委員 A L Tの配置についての議案質疑に関して、昨年度の学力テストでは、中学校の英語の成績が低く、特に表現力に課題があったと記憶している。英語力の向上は、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上とも深く関係していると思う。その点からも全ての学校において英語力を向上させる方策を考えていただきたい。</p> <p>教育長 2020年度から小学校5、6年生で正式に外国語教育の教科が始まる。さらに3、4年生から外国語活動を行うこと等、色々対策を講じていかなければならないと考えている。</p> <p>学校教育部長 今までの英語に対するアプローチは、A L Tによるネイティブな発音を聞くであるとか、小学校では、異文化を知るなどの傾向が強かったものである。しかしながら、学力テスト等、採点され</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	<p>る英語力については、学習指導要領が変わることも見据えて、密度を高く練習をすることや、今まで小学校で行っていなかった書く指導をしっかりと行うことも必要と考えている。</p> <p>A L Tをあと1人増やすことで、子どもたちが英語を学ぶ機会がだいぶ増える。今後A L Tを増員することを検討する必要を強く感じている。</p>
	古市委員	<p>小学校に入る前の段階で英語教育は始まっている。幼稚園等では座学ではなく、英語の歌やダンス、おしゃべりすることが楽しいという雰囲気英語に接するところから入っている。学校教育でも、音楽の授業でビートルズの曲を取り入れたりしており、英語の歌を歌うことから、発音を良くしたいとか、英語の本が読みたい等、英語に対するモチベーションに繋がることもあると思う。A L Tの増員に関しては、予算の面でもなかなか大変であると思うが、例えば、高校を退職した英語の先生等にそのスキルを活かしてもらうのも良いのではないか。数学に関しても同様のことが言えると思う。</p>
	学校教育部長	<p>英語の歌については、小学校1、2年生もA L Tの手が空いている時間に頼んで英語の触れ合いをしたり、歌を歌ったりすることを始めている。そのような取組みが3年生以降の活動にも繋がっていくと考えている。高校を退職した先生に指導をお願いすることについては、教科特定になるため、臨時的任用の枠があり、本人の希望が合えば、可能ではないかと考える。</p>
	教育長	<p>岩瀬公民館で英会話教室をやっており、A L Tと児童が学校以外でも英語活動を行っているが、そのような取組みを進めて行けば、これからの学習指導要領に沿った形で外国語教育も充実すると思う。公民館活動の英会話教室の様子を紹介していただきたい。</p>
	生涯学習部長	<p>先日、埼玉純真短期大学にてまちづくり部と合同で岩瀬グローバルタウン構想における発表を行った。公民館にて、年間を通し小学生から高齢者まで参加し、A L Tに来ていただき、英会話教室を行っている。英語の歌を歌ったり、参加者は毎回とても楽し</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>そうに活動している。しかし、回を重ねるにつれ、個々の英語力に差が出てきているため、今後の課題としては、それぞれの力に合わせて指導を行うことと、活動をさらに充実するため、大学の先生等を紹介していただき、特別講座を開催するなど、事業の幅を広げていきたい。</p>
	高瀬委員	<p>学校給食費の現状に関する一般質問の中で、振替金融機関が異なることについての議員の質問の意図はどのようなものか。また、答弁中、格差ができないよう各学校に働きかけるとあったが、どのような働きかけをするのか。</p>
	学校教育部長	<p>給食費の集金については、6校が保護者のゆうちょ銀行の口座、7校がJAほくさいの口座からそれぞれ引き落としている。残り1校はPTA役員の協力により現金で集金している。議員の質問の趣旨は、引落とし手数料が、ゆうちょは銀行は10円。JAほくさい108円であり、1年間で11回集金するので約1,100円の差額が発生する。これにより保護者の金銭的負担に差が出てしまうのではないかということである。これに対する教育委員会としての働きかけは、保護者の負担が軽くなるよう金融機関を変えることについて検討をお願いするという事になるが、学校ごとにこちらの金融機関が最寄りであるとか、こちらの金融機関の口座を持っている家庭が多いなど、様々な事情があり、金融機関の変更は簡単ではないとの意見をもらっている。最終的に決定するのは、各学校であり、PTAやコミュニティスクールの推進委員等と相談して決めていくという回答をいただいている。</p>
	高瀬委員	<p>学校が金融機関を指定しているとのことだが、保護者の総意において決めるのは難しい。それができるのであれば、理想的だと思う。</p>
	教育長	<p>保護者の負担が1回につき約100円違うというのは、子どもの人数が多い家庭にとっては積み重なると大きな金額になる。声にしたいができなかった気持ちがあることを議員は代弁して質問をしたと受け止めている。そこを汲んで教育委員会としては、全ての学校を回り検討をお願いしたところである。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第3 議案第26号 平成29年度羽生市コミュニティスクール推進委員会委員の委嘱又は任命について</p>	柿沼委員	<p>私がPTA会長を務めていた頃にもこの問題が話題になったことがある。ゆうちょ銀行並みに手数料を安くできないかJAほくさいに交渉したが、無理であるとの回答だった。しかし、108円であっても、口座振替の手数料としては安い方であり、企業努力していると思う。ゆうちょ銀行にも企業としての戦略があり10円という金額になっているのだと思うが、それぞれの学校、地域と金融機関との付き合いもあり、難しい課題である。これを機会として、PTAに話を投げかけ、協力を仰いでも良いと思う。</p>
	教育長	<p>報告事項については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	教育長	<p>議案第26号について学校教育課長から説明を求めた。</p>
	学校教育課長	<p>コミュニティスクールの指定を受けた小学校6校において、委員を委嘱又は任命することについて、議決を求める。委員の構成は、地域住民、有識者、保護者、指定学校の校長及び教職員となっており、任期は平成29年4月21日から平成30年3月31日までである。</p>
	教育長	<p>議案第26号について意見・質問を求めた。</p> <p>特になし</p>
	教育長	<p>議案第26号については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	教育長	<p>議案第26号については、可決された旨宣した。</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	次回教育委員会日程について事務局より説明の旨。
	教育総務課長	5月定例教育委員会は、5月25日 午後1時30分より教育委員室にて開催する。
	教育長	<p>閉会を宣した。</p> <p>教育長 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>書 記 _____</p>